

2024年度の事業(抜粋)

## ●まち育てコーディネーター養成事業

りたの専門分野である「ワークショップ手法」や「会議ファシリテーション」について、センター長クラスを対象にしたスキル向上研修「WS／ファシリ力UP研修」を実施しました。研修では、理論や技術のリスクリングを行い、理解と活用力の定着を図りました。

さらに、交流センター事業を通じて実践を重ねたことで、参加者の主体的な関与を引き出す場づくりが可能となり、地域の多様な声を汲み取る力の向上にもつながりました。

## ●第2回事業提案フォーラム

りた内外の潜在的な資源を活用し、りたの強みを活かした事業開発や地域ニーズへの対応充実を図ることを目的として、職員間で事業提案と意見交換・協議を行いました(2023年度実施した「事業提案コンテスト」から「事業提案フォーラム」に改称)。

『提案』『プレスト』『報告・相談』の3部門を設け、「地域の課題解決」「地域の魅力向上」のための事業や「りたの業務改善や会員拡大、コミュニティ醸成等に資する提案、もしくはアイデア」をりた全職員対象に募集し、『提案』3件『プレスト』5件『報告・相談』1件・合計9件の応募がありました。提案された事業・アイデアは、採択／見送りを分け、採択されたものについては順次実現を図っていきます。

## ●専門家派遣事業

岡崎市近郊での講義・ワークショップ実施や岡崎市内の先進事例の紹介、各種委員会や審議会への助言ならびに政策提言を担いました。

市内で実践した各事業の成果が県内の各地域などからの評価につながり、様々な派遣依頼につながりました。複数メンバーで実施する単発ワークショップ運営等の事業受託が増加し、それぞれの主催者・参加者のニーズに合わせた課題解決につなげるための場づくりや支援を行うことができました。

## りた会員募集のお知らせ

りたは、市民が中心となり、専門家や行政とも協働してまちをつくる社会を目指すNPOです。本法人の趣旨にご賛同いただける団体・個人の方々の入会をお待ちしております。

＜正会員＞ 団体正会員 一口 年額10,000円 個人正会員 一口年額 3,000円

▲総会での議決権を持ち、NPO運営活動に直接的にご参加いただけます。

＜賛助会員＞ 団体賛助会員 一口 年額10,000円 個人賛助会員 一口年額 3,000円

▲りたの活動に賛同し、支援するための会員です。総会での議決権はありません。

・入会いただいた方には、郵送にて本誌(年6回)を送らせていただくほか、法人運営に関わる会合(総会等)のご案内をお送りします。

・年会費は、申し込み時期に関わらず、毎年3月31日(本法人の事業年度末)をもって更新となります。

まちのミカタ

**Litaracy**

発行・編集



特定非営利活動法人

岡崎まち育てセンター・Litaracy

2025.07vol.134

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6  
TEL(0564)23-2888/FAX(0564)23-2898  
<http://www.okazaki-lita.com/>  
<https://www.facebook.com/okazaki.lita/>

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／cafeくらがり／松應寺

まちのミカタ

**Litaracy** 一りたらしい一

134

2025年7月



特集

2024年度のりた

りたは、市民や市民団体、企業の社会貢献活動を促進し、市民・企業・行政が互いに協力しながらまちづくりを進めることで、岡崎市における協働型社会の実現を目指しています。

2024年度は、地域交流センター5館およびりぶら市民活動センターの運営を通じた市民協働の啓発や学習機会の提供に加え、新たな協働パートナーの発掘や関係づくりを図るアウトーチーにも力を入れました。

また、2015年度から2023年度まで継続して受託してい

た乙川リバーフロント／QURUWA地区のまちづくり関連業務が一段落しましたが、そこから見出された社会ニーズと地域課題に対応するため、自主事業として新たに「西梅園地域菜園プロジェクト」を立ち上げ(ハウジングアンドコミュニティ財団の助成金を活用)、地元町内会、行政各課、民間事業者らと協働・連携した地域再生の取組が始まりました。

今号では、多岐にわたる2024年度の活動を抜粋し、19年目を迎えたりたの事業内容・成果を報告いたします。

# 数字で見る「りた」2024

## 決算額(経常収益)

2億1300万

## 従業員数

63人

## 交流センタ一年間利用者数

約45万人

前年度から継続する事業に加え、安城地区公園再整備基本構想のワークショップなど市外業務の拡大などにより、経常収益は約900万円増加しました。

## ボランティア役務提供額(1077円/h換算)

550万円

「りた」の事業に関わっていただいたボランティアの延べ活動時間数を賃金換算して可視化。昨年度に比べ、延べ人数は約1,400人、延べ時間は約1,600時間増えました。(延べ5,625名5,155時間)

## りたの「3つの主要テーマ」に対する成果

### III 地域活力を高める

市民活動および地域活動の拠点施設(地域交流センター)の管理運営を通じて、市民自治・地域自治の礎となる地域の担い手を掘り起こし、市民活動団体による公益活動の場づくり、中学生・高校生・大学生の社会参加の場づくり、市民活動や地域活動へのボランティアマッチング(まちびとバンク)を推進しました。日常的な窓口業務や情報の受発信、事業実施により蓄積されたネットワークを活かし、地域の課題解決や地域資源を活用する担い手を掘り起こし、市民協働型社会の実現に向けて活動を行いました。

#### 【該当事業】

地域交流センター指定管理、まちびとバンク ほか

### III 地域資源を活かす

公園、鉄道駅などの公共空間、そしてその場所を積極的に活用する市民、団体、事業者を地域の資源としてとらえ、公共空間のより豊かな使われ方を見出し、その場所ならではの価値として意味付け、それらを具現化し、持続させるための活動と結びつけ、地域の魅力向上に貢献しました。

#### 【該当事業】

公園愛護運営会設立等支援業務、三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援業務に関するコンサルティングほか

### III 地域課題を解決する

少子高齢化、空き家の増加、防災、子育て支援など、山積する地域課題に対して、地域包括支援センター、岡崎市社会福祉協議会、学区福祉委員会など既存の担い手との連携や、社会貢献意欲のある個人や団体、ボランティアなどの担い手の発掘およびマッチングを通じて、地域の課題解決を支援しました。

#### 【該当事業】

地域包括ケアシステム支援事業、下山地域運営組織設立支援事業、カーボンニュートラル人材育成事業、西梅園地域菜園プロジェクト、市民活動支援ほか

### ●下山地域運営組織設立支援事業 (岡崎市中山間政策課)

岡崎市下山学区における持続可能な地域づくりを支援するため、下山学区地域づくり協議会の運営支援および農村型RMO(地域運営組織)の体制と、これまでの活動を踏まえた事業内容の精査を行いました。

各部会が行う体験農園「となりの田んぼ」の実施、YAMABIKO食堂の運営、地域支え合い車両「YAMABIKO号」の運行、通信の発行といった既存活動の成果と課題を整理し、運営方法の見直し、3年間の国庫補助期間終了に伴う組織体制の再構築を図りました。加えて、オクオカ活性化拠点下山(YAMABIKO、旧JA下山支店)の活用可能性を探るべく事業者ヒアリングを実施し、YAMABIKOを地域づくりに資する形で有効活用いただける事業者を約10社リストアップし、うち5社からヒアリングを行いました。これにより、実際の活用における課題や障壁を把握するとともに、今後どのような形態での利用が望ましいか、条件整理と具体的な活用案の作成を進めました。



### ●「三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援業務」

#### に関するコンサルティング (愛知県公立大学法人委託事業)

尾張旭市は三郷駅前開発事業推進にあたり、愛知県立芸術大学とまちづくり協定を締結し、本事業を通じて地権者を含む市民がまちづくりに貢献できるよう支援しました。りたは、再開発基本計画への市民意見反映、エリアマネジメントの機運醸成・体制づくりを念頭に、各種ワークショップ、社会実験、フォーラムの企画・運営をしました。

市民プラットフォーム「35フレンズ」は「部活」として市民主体の活動を活発化させました。再開発ビルの公共施設領域が明確になったことを受け、コンテンツイメージを共有する社会実験「35フェス」をイトヨーカドー屋上で開催。原寸大空間を体験できる仕掛けで1000人が来場しました。成果フォーラムでは、各務原の「寄り合い」から緩やかな場の持ち方を学び、2025年度の実装を目指します。



### ●愛・地球博記念公園マネジメント会議運営補助業務

(日本工営都市空間株式会社)

愛・地球博記念公園マネジメント会議の会議ファシリテーション支援を行いました。ジブリパーク開業に伴う駐車場変更により来園者動線が変化しました。施設周辺ではジブリの世界観維持をジブリ社から強く求められています(愛知県、指定管理者、ジブリ社の三者協定)。これを踏まえ、園内の特定の区域を試行錯誤する「チャレンジスペース」を2か所に設定しました。一つは、もののけの里に隣接する「サトラボ区域」で、ジブリ社の了承を得つつ取り組む方法を検討します。もう一つは、ジブリパーク施設から離れつつも新たな動線の結節点となる「西側エントランス」で、新しい賑わいの場を創出することを目指します。



### ●安城地区公園再整備基本構想策定ワークショップ

(株式会社ブレック研究所)

安城市では、秋葉公園、柿田公園、堀内公園、川島河川敷公園の4つの地区公園リニューアル構想策定を進めています。りたは、その市民ワークショップの企画・運営を担当しています。2025年度までの2年間で全4回のワークショップを開催し、市民意見を構想に反映させます。

初回ワークショップを2025年2月に実施し、約40名の市民が参加しました。ここでは、参加者がお互いを知り、関心の高い公園以外の公園への理解を深める機会を設けました。このワークショップでは「現状の公園の魅力や課題の可視化」を目標とし、その成果として、活用が進んでいない川島河川敷公園に新たな魅力を付加する、自然豊かで生き物との出会いがある既存の良さを継承発展させる、大規模公園としての特性を踏まえ「遠くても行きたくなる魅力的な公園」を合言葉に進める、という3つの方向性が明確になりました。



# まち育て推進チーム

## 2024年度の事業(抜粋)

### ●カーボンニュートラル人材育成事業(岡崎市ゼロカーボンシティ推進課)

岡崎市は、環境省が定める「脱炭素先行地域」に選定され、2050年ゼロカーボンシティ実現に向けて様々な取組を行っています。

その一環で、昨年度グリーンフロント研究所株と協働で制作した小中学生向けの環境学習プログラム(水編／ファッショング編)を、実際に北野小学校の授業で実施・検証しました。

また、高校生有志を募り、市内でカーボンニュートラルに取り組む企業への取材および記事執筆をしてもらい、脱炭素に資する取組の情報発信と人材育成を兼ねたプログラムを行いました。これらの記事は、市内小学生の夏休みの宿題シートとしても利用される予定です。

### ●地域包括ケアシステム支援業務(岡崎市ふくし相談課)

地域包括ケアシステムの構築と地域共生社会の実現を目指し、市内20の地域包括支援センターに対し、新任職員研修や福祉をテーマとしたアイデアソンの企画・実施、広報業務の相談・助言などを行いました。アイデアソンでは、身近にあるにも関わらず認知されていない福祉課題をテーマに、包括職員と地域の事業者がそれぞれ提供できることについて話し合い、地域が一丸となって福祉に向き合う機運づくりに寄与しました。

### ●西梅園地域菜園プロジェクト(ハウジングアンドコミュニティ財団からの助成金)

岡崎市の西梅園地区では、接道義務を満たしておらず再建築ができない住宅が多く、空き家の増加と若年層の流出が課題となっています。一方で、QURUWAのまちづくりの成果として、QURUWA周辺に住みたいニーズが高まっています。こうした課題とニーズに対応するため、空き家を活用し、地域内外の住民の交流を促す地域菜園づくりを行いました。また、地元町内会や中央地域福祉センター、地域包括支援センター、岡崎市ふくし相談課と連携し、地域住民と地権者の不動産活用意向調査を実施したり、月1回の茶話会を開催しました。これらの活動を通じて、地域住民との関係構築が円滑に進み、不動産活用や暮らしの困りごとに関する情報や相談が寄せられるようになりました。

今後、岡崎市まちづくり推進課や住環境政策課と連携して、安全安心なまちづくりや、無接道・狭い道路に面した不動産の有効活用等についても検討を進めています。

### ●公園愛護運営会設立支援等業務(岡崎市公園緑地課)

公園愛護運営会の運営課題やノウハウを共有する「情報交換会」を開催し、地域住民による主体的な公園管理・活用を促進するための支援に取り組みました。7月の情報交換会では、運営会の認知度の低さが課題として挙がりました。そこで、岡崎市広報課に働きかけ、市政だより1月号に特集記事を掲載。市民からの問い合わせが複数寄せられるなどの反響がありました。また、改修予定の矢作公園では、地域役員とのブレーキショップで現状把握を行い、やはぎかんの協力を得て住民参加型ワークショップを実施。「防災イベント」や「地域交流イベント」「自然あそび」などの活用案が提案され、それぞれの活動の担い手も確認されました。



# 北部地域交流センター・なごみん

## 2024年度の事業(抜粋)

### ●市民活動サポート研修 マネジメント研修(全2回)

参加者数(受講者): 24人(18団体)

第1回「市民活動団体ってなに?」では、岡崎市における市民活動団体登録制度の流れと要領を講義、第2回「団体運営のポイント」では、模範的な市民活動団体から市民活動を始めたい人(団体)に公益活動を持続的に行うための助言を聞く機会を設け、また参加団体同士の情報・意見交換も行いました。



### ●地域交流サミット「くらしまをまる」

参加者数: 25人(4団体)、協力: 1団体／講師4人

子どもたちを取り巻く環境の変化と防犯に関して、講演や2つの事例発表を開催し、地域の様々な方々や市民活動団体と意見交換をしました。防犯アドバイザーの意見なども取り入れながら、ソフト・ハード両面で地域社会が必要とする取り組みは何なのかを共有・認識することができました。

### ●なごみん横丁(第16回)

参加者数: 669人、協力: 6団体／ボランティア195人

子どもたちが大人に干渉されない環境下で、自身で考え“まちをつくる”体験型イベントを開催しました。子どもたちが働くブースの運営を市民活動団体や企業と協働することで、子どもと企業・団体の交流の機会を創出しました。また、事前説明会では当日の役割分担の他、ボランティアの心構えを詳説し多くの高校生や大学生に主体的に協力してもらうことができました。

### ●聾学校×地域 協働創出事業

参加者数: 86人、聾学校(先生・生徒)34人、団体13人(1団体)、協力: 2団体／ボランティア2人

北部地域にある岡崎聾学校と地域活動・市民活動の活性化を目指し、連携を生む接点となる交流会を開催しました。2024年度は岩津マジッククラブと協働し、マジックを学ぶ体験において手話や筆談を用いて交流するとともに、障がい者と健常者が力を合わせて活動する機会となりました。



# 南部地域交流センター・よりなん

## 2024年度の事業(抜粋)



### ●市民活動サポート研修「イベント運営レベルアップ研修①」

参加者数(受講者): 16人(12団体)／講師1人／ボランティア1人

市民活動団体がイベントや講座を開催する上での基礎を学ぶ研修会を開催。名古屋を拠点に活動する「おやこラボ」に講演いただき、その後よりなんからイベントの企画、準備、運営のポイントなどを伝えました。入門編からふりかえり編の間にイベントを企画し、よりなんでの開催を実践の一環として行いました。

### ●市民活動サポート研修「イベント運営レベルアップ研修②」

参加者数(受講者): 10人(7団体)

第1回で学んだことを実行することで、イベント運営における課題解決力が向上し、活動基盤の強化に繋げることができました。グループワークでは反省点や気づきを団体同士で共有し、アドバイスしあう姿が見られ、新たな協働が生まれる機会にもなりました。

### ●市民活動エキスポ

参加者数: 389人、出展: 86人(15団体)／ボランティア2人

市民活動活性化のために地縁団体と市民活動団体、事業者が連携し、それぞれの立場から地域の課題解決や市民活動に関する情報交換等を行なうイベントを開催しました。各団体がブースを通じて活動の発信をするのでなく、他団体の取り組みについて知ることができ今後の協働につながる多くの交流が生まれました。

### ●地域とつながる協働交流会

参加者数: 14人(12団体)

異なるテーマや異業種間で協働する利点、コミュニケーションの取り方、相談窓口について情報共有を行い、課題解決に向け自団体ができるることを共有する場を設けました。また、他団体との繋がりを促進するための「活動がわかるモノ交換会」を実施し、協働の大切さや理解度を増す機会を提供しました。



# 西部地域交流センター・やはぎかん



2024年度の事業(抜粋)



## ●市民活動サポート研修 「SDGs研修①基礎編②応用編」

参加者数(受講者):25人(11団体)／協力:3団体／講師6人  
基礎編と応用編として2回開催しました。基礎編では自分の「SDGs宣言」を行うことで考えるきっかけを、応用編では地域や団体間でのパートナーシップの大切さを学ぶ機会を提供しました。  
いずれの講座も、SDGsの視点を取り入れることで団体の信頼や活動の継続を高め、持続可能な活動を目指す意義を理解してもらうきっかけづくりとなりました。



## ●ボランティア交流会

参加者数:28人(17団体)、協力:2団体、出展:2団体／講師2人  
ボランティアの基礎知識や受入の心得を学んだ後、学生ボランティアの現状や受入の工夫、マッチングの課題など、現場の声を聞く機会を提供しました。グループワークでは、ボランティアに関する考え方について意見交換をしたことで、他団体への理解が深まり、他団体の事業参加に繋がった例もみられました。



## ●防災交流会～ゲームを通して防災意識を高めよう～

参加者数:49人(15団体)、協力:2団体、出展:14団体／ボランティア16人  
市民活動団体である岡崎ボードゲーム会や守ろう子どもと赤ちゃんと協働し、防災ボードゲームや防災体験コーナーを設営しました。多くの学生ボランティアも関わり、大人も子どもも楽しみながら防災を学べる設えとなりました。14の市民活動団体の展示も、防災に関する情報発信と啓発に繋がり、好評を得ました。



## ●花のとう支援事業

参加者数:300人、協力:1団体、出展:3団体／ボランティア2人 ※やはぎかん担当ブース  
矢作地域の伝統行事「花のとう」の実行委員会と協働し、花のとう開催に向けた広報活動やマッチング、会議運営支援などを行いました。催事日には、花のとうの由来や伝統、地域とのつながりを市民に啓発する展示ブースを設け、多世代に発信し、同行事を啓発することができました。



# 東部地域交流センター・むらさきかん

2024年度の事業(抜粋)



## ●市民活動サポート研修 「IT利活用研修」

参加者数(受講者):28人(20団体)、協力:2団体／講師2人  
岡崎市視聴覚ライブラリーの杉坂和俊氏から、情報モラルと情報リテラシーの両方を高める必要性についての講義、岡崎市東海中学校PTA副会長の佐藤仁泰氏からは生成AIを活用したPTA活動の事例紹介をしていただきました。これらを通じ、デジタルツールを安心・安全かつ効果的に活用していく基礎知識を取得し、市民活動への意欲を高めてもらうことができました。



## ●活躍人！交流会～食品ロス対策～

参加者数:25人(21団体)／講師2人  
愛知学泉短期大学食物栄養学科や認定NPO法人葵風による事例紹介を通じて、食品ロスを発端とする社会課題を自分事として捉えてもらうことができました。グループワークでは食品ロス削減についてグループ内で意見交換することで、協力体制が生まれ協働に繋がる機運が高まり、アンケート結果では8件の協働の可能性が見られました。



## ●むらさき麦まつり連携事業 市民活動博覧会

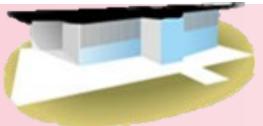
参加者数:1,153人(20団体)／ボランティア1人  
市民活動団体等による体験会を12ブース、作品や活動紹介の展示を13ブース、販売を4ブース設置し、市民活動のPRと啓発を行いました。また、藤川まちづくり協議会主催の「むらさき麦まつり」と同時開催し、連携やサポートを行ったことで双方方向の人の回遊が生じ、多様な層に市民活動や地域活動を啓発できました。



## ●むらさきかん ふれあいひろば

活動団体が交流スペースで来館者に向けて15分程度のプログラムを実施できる場として、サロンを開催しました。各々が観覧者に向けて工夫を凝らしたプログラムを考え、積極的にこの場を活用する様子が多く見られ、自身の得意を活かしたり自己表現・社会貢献したりできる場となりました。来館者にとっても気軽に楽しめる一時の安らぎの時間となっており、リピーターが増えるなど好評を得ています。

# 地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里



2024年度の事業(抜粋)



## ●悠紀の里開館10周年ゆきフェスタ

参加者数:4,247人、協力:17団体、出展:42団体／ボランティア30人  
2日間にわたり周年事業を開催しました。悠紀の里サポート会による歴史民俗資料室案内ガイドアーや、斎田ゆかりの地である香川県綾川町のそばの振る舞い、地域団体と学泉短期大学が協働したお菓子のレビューや開発など、市民活動を行う団体に加え、地域団体・学校・企業・行政(ふくし相談課・福祉センター・地域包括支援センター)など垣根を超えた協働を図ることができ、地域の活動を活発化し発信することができました。



## ●市民活動サポート研修 「おかざき市民活動情報ひろば活用研修」

参加者数(受講者):14人(6団体)  
「おかざき市民活動情報ひろば」を市民活動団体が使いこなせるよう、「お知らせ」「イベント」「活動紹介」「募集」の各カテゴリーの基本的な操作方法をマンツーマンで研修しました。各団体1~2時間程度にわたって操作を学んでもらい、団体の情報発信に役立てていただくことができました。



## ●ゆきファミリーパーク

参加者数:662人、協力:2団体、出展:17団体／ボランティア21人  
実行委員会を立ち上げ、子育て世代向けのイベントを開催しました。今年度はパパマイスター登録者や企業の出展にも繋がり、来場者に好評でした。出展団体には団体同士の相互理解を深める機会として当日イベント以外に、子育て支援交流会、PRチラシや館内装飾の製作日、当日相互のブース体験時間を用意し、交流と連携を深めるきっかけを提供しました。



## ●むつみ地域交流会

参加者数:42人(28団体)、協力:2団体、出展:2団体／ボランティア2人  
むつみ地域包括支援センター及び南部地域包括支援センターと協働し、六ツ美地域の連携を図ることを目的に開催。今回は防災をテーマに、ファーストミッションボックスの体験と意見交換を行いました。  
地域総代だけでなく、学区社教の防災関係者や女性自主防災の方にも参加いただき、多様な交流機会となりました。



# りぶら市民活動センター



2024年度の事業(抜粋)



## ●市民活動の支援・推進

窓口相談件数(121件)／市民活動団体新規登録(10団体)／情報ひろば入力支援(61件数)  
市民活動に関する相談や市民活動団体登録を目指す団体へのアドバイス、申請の受付、既存団体の登録内容変更、団体廃止処理を行いました。また、市民活動活性化のためのサイト「おかざき市民活動情報ひろば」を適宜更新し、問合せ等にも対応しました。



## ●市民活動に関する情報の収集及び提供

チラシ等の受付(731件)／年6回メールマガジン配信(登録団体・者292件)  
ポスター・チラシの受付、掲示、配架及びメールマガジンの配信、ホームページの更新を行いました。また、活動コーナーでは市民活動団体PR動画、ボランティア情報、助成金報告会の様子を常時モニターで放映し、市民活動に有益な情報を提供しました。



## ●「まちびとバンク」「まちびとステージ」「もののバンク」事業

マッチング:まちびとバンク(554件)／まちびとステージ(23件)／もののバンク(51件)  
ボランティアをしたい市民とボランティアを必要としている団体をマッチングする「まちびとバンク」、自分の経験・特技を活かせる機会を探している人と活躍の場をマッチングする「まちびとステージ」、譲りたいものと欲しいもののマッチングをする「もののバンク」の3事業を実施し、市民活動の活性化に取り組みました。



## ●情報発信事業

「まちのワ!」発行回数6回(東海愛知新聞)掲載団体108団体／市民活動団体PR動画作成3団体  
地域交流センターとの合同情報誌「まちのワ!」において、公益活動に活発に取り組んでいる団体を取り組し、記事を掲載しました。また事業者(東海愛知新聞社)と連携し、市民活動団体の紹介記事を掲載し広く市民に届けました。ほか、岡崎商業高校と連携した市民活動団体PR動画作成の申込の受付、打ち合わせ日程連絡など、岡崎商業高校と市民活動団体の調整役を担いました。